

「守るために」と題して、まちづくりフォーラムを開催。参加者から「各区に防災委員を設置してはどうか」との提案を受け、今年5月より、市内全区に自主防災活動を担う『防災委員』を設置していただきました。

平常時は、防災・避難マニュアル作成のほか、避難訓練などの計画と実施、防災資機材の調達や管理などにあたり、災害発生時には、区長を補佐し、情報を収集し住民に伝達、自主防災組織の活動支援、区長と協議し住民に自主避難を促す、避難所の開設と閉鎖などの役割を担っていました。

6月には、研修会を開催。初めに、県災害対策局長の基調講演により、水害や地震のメカニズムの説明、震災で生き埋めになった被災者の約8割が消防や警察、自衛隊でなく近隣の住民によって救助されたと実例を挙げ、「大規模な災害になるほど、公助よりも自らの生命は自分で守る自助や、住民が助け合う共助が重要になる」と強調されました。

その後、被災体験談として、昨年8月の水害被災地となった神子畑区の中島前区長には、「瞬間的に降った大雨により、道路は土砂や倒木で閉ざされた。早くから避難したらみっともないとか考えず、空振りに終われば幸いと、早めに逃げるしかない」と。また、1人が犠牲となった立野区の藤本区長も「まさか立野が水害に遭うとは思っていませんでした。亡くなられた方は避難中に流されて犠牲となられた。避難の難しさを痛感した。日頃の声かけが大切で、独居老人などに対して素早い対応ができた」と話されました。

避難訓練

災害の初期の段階では、近隣住民の協力により多くの命が救われています。災害は「いつの日か必ずやって来る」という認識を持ち、避難訓練などを行い、災害に強いまちづくりを目指しましょう。

災害から、自らの命、財産を守るためには、普段の備えや防災訓練を行うことが重要です。普段やっつけていても、緊急時になかなかできないのが実状です。ましてや、普段

から経験していないことは、緊急時には何もできません。






8月10日、市では、台風接近による大雨被害を想定し、「避難勧告」一斉テスト放送を実施しました。合わせて、殿町区では、平成16年の台風23号により古城山の土砂崩れで土石流が発生し、浸水被害が発生した経験から、住民の防災意識を高めるため、市、消防本部、朝来警察署と合同で、避難訓練が行われました。実践的な避難訓練を実施することで、図面上ではなかなか気づけなかったことを体験することができました。

災害時に的確に行動し、被害を最小限に抑えるために、日頃からの防災訓練が欠かせません。いざというときに混乱しない「災害対応力」を身につけるため、実践的な防災訓練を繰り返し行いましょう。



災害時に消防団員以外の市役所職員は防災服を着て活動します

雨の強さ、降り方と災害の危険性

1時間雨量と予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	災害の危険性
10～20 ^{mm} 未満 やや強い雨 	・ザーザーと降る。	・地面からのはね返りで足元がぬれる。地面一面に水たまりができる。	・この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20～30 ^{mm} 未満 強い雨 	・どしゃ降り。	・傘をさしていてもぬれる。 ・車の場合、ワイパーを早くしても見づらい。	・側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ・小規模ながけ崩れのおそれがある。
30～50 ^{mm} 未満 激しい雨 	・バケツをひっくり返したように降る。	・道路が川のようになる。	・山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
50～80 ^{mm} 未満 非常に激しい雨 	・滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	・傘はまったく役に立たなくなる。 ・水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	・土石流が起こりやすい。 ・多くの災害が発生する。
80 ^{mm} 以上 強烈な雨 	・息苦しくなるような圧迫感がある。 ・恐怖を感じる。		・雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。